



上海市の生徒が来校しました！（7月8日 上海平和双語学校、上海市世界外国語中学）
日本の学校を見学に来た上海の中高校生7人が、国際の生徒と交流し、一緒に授業を受けるなど隼人を体験しました。国際の生徒にとっても生徒同士の交流の中から中国と日本の関係を少しだけ学ぶことができたと思います。以下の文章は、段思農くんの日本語での挨拶です。

横浜隼人高校の皆様、はじめまして。皆様のおかげで、本活動を開催できました。快く協力して下さった皆さんに、心より感謝申し上げます。中学二年の時、私は地理の教科書で東京の郊外の写真を見て、その綺麗さに驚きました。ゴミがひとつも落ちていない綺麗な街。放課後自転車に乗って楽しそうに喋っている生徒たち。夕日に輝いている川。私はこの写真を見て、「不思議だなぁ」と思いました。この町はどうしてこんなに綺麗なんでしょう？これから発展していく私の町は、この写真のように綺麗な町になるだろうか？そう考えたところから、私は日本に深い興味を持つようになりました。

私は独学で日本語を学びました。まずは平仮名と片仮名を習い、そして文法を勉強し、語彙を増やしていきました。一人で前に進んでいったのです。最初はかなり苦しかったし、辛かった。同じ漢字を使っている、日本語の文法は中国語と全然違うからです。さらに、学校の宿題や、英語の勉強、TOEFLの準備もしなければなりません。気持ちが沈んだ時もありますし「勉強したくないぞ！」と叫んだ時もあります。「諦めよう」と思った時もあります。しかし、折角ここまで来たんだ、もしここで諦めたら、これまでの努力が水の泡になるのではないかと考えると、私は日本語の勉強をやめるわけにはいかなかったのです。勉強を始めて2年、私は日本語能力を次第に高めていきました。そして、今では日本語で日本の方と交流したり、日本の書籍を読んだりする事もできるようになりました。

今年は上海市と横浜市の友好交流都市締結40周年です。そして難しい一年でもあります。日中関係は厳しいものとなっておりますが、こういう時期だからこそ交流を行うことが大切であると私は考えています。日中間の友好をさらに強くし、両国の関係が正常なものとなるよう努力することは、我々高校生の義務であると考えています。もちろん、私たちの力はまだ弱い。私たちにできる事も限りがあります。しかし、何もしないと何も始まらない。動き出せば、きっと現状を打破できる。We are the new generation! 未来は私たちが作る、世界は私たちが改善する、私たちなら、きっとできます！



合唱部「翼をください」その後みんなで！



和太鼓部の演奏で歓迎の式典が盛り上がります。



生徒同士はすぐに仲良くなりました



授業に参加、放課後には部活動の見学、その後、交流会も行いました。



部活で活躍！～吹奏楽部 実績、部員数共に本校の誇る文化部の一つ、吹奏楽部にも多くの国際の生徒が所属しています。夏から秋にかけての全国大会を目指して頑張っている、部長で国際語科3年の さんに抱負を語ってもらいました。

「こんにちは！ 吹奏楽部には fresh な1年生38人が新たに加わり、合計93人で毎日練習に励んでいます。コンクールまで残り1ヶ月を切ったので、部員一同が一丸となって頑張っていきます。応援よろしくお願いします！」
(写真:左 3-A くん 中 3-B さん 右 3-A くん)



夏のボランティアはもう決まった？～保土ヶ谷社会福祉協議会来校（7月4日）

横浜市には18の社会福祉協議会という組織があり、その多くが夏休みに障がい児の余暇支援（高校生などと一緒に活動をする）のボランティアを募集しています。国際の生徒もたくさんのボランティアに参加しています。今年も素敵な思い出ができることを願っています。また、夏休み開けにはその楽しいボランティアの経験を、是非友だちにも教えてあげてください。



ようこそ先輩！（先輩）私は今、青山学院大学の総合文化政策学部に通っています。現在は文学を専攻していますが、山形県新庄市のまちづくりにも取り組めました。何度も現地へ赴き、地元の方々との交流を深め、役所の方と共にまちづくりについて考えることができたのはとても貴重な経験となりました。このような活動ができるのは私の学部ならではの経験だと思います。また、学部の授業で一番面白いと感じたのは「広告文化論」です。毎回著名なCMクリエイターの方がゲスト講師としていらっしゃいます。例えば、ソフトバンクの「白戸家」のCMを作った方などです。講義の度に様々なお話を聴くことができ、新しい価値観に触れることができるので、面白い勉強ができる学部だなぁと常々思います。

大学生活に関して言えば、もちろん大学に通って好きな勉強もしてきましたが、貯めたお金で旅に出ることに本気でした。以前、カンボジアの村の小学校を訪れた時にこんなことがありました。子どもたちに遊び道具をプレゼントしようと日本から楽器やボールを持って行きました。7歳の裸足の少女に笛をプレゼントすると、誰にも取られないように握りしめて嬉しそうに吹いています。しばらくすると少女がカスタネットを持って私のところへやって来ました。それを私にプレゼントしてくれるというのです。私は打ちのめされる思いで「ありがとう」と笑顔を返すことしかできませんでした。時には欲張りであることも必要でしょうが「足るを知る」ということも大切だと思います。旅を通して、世界は思っているよりも美しいということを知りました。

私は来年の4月から社会人となります。「世界から飢餓と貧困を撲滅する」という企業理念を掲げた会社で働きます。とても楽しみです。このような企業理念に惹かれたのも、バックパッカーになって世界を回ったのも、国際語科に3年間いた影響が少なからずあるのではないかと思います。在校生の皆さん、ぜひ高校生活を本気で楽しんでください。そして受験生の皆さん、「あの頃私たち必死だったわね、良かった」と思い出話ができるように頑張ってください。

